

千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.82

【発行】千葉県テレビ伝道協力会
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072
E-mail: chiba@life-line.tv
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
2-1 OCCビル
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650
E-mail: mail@pba-net.com
ホームページ <http://www.pba-net.com>
でんわ世の光 03-3291-9061

「心病む社会の中で」

聖書と精神医療研究会理事・JBBF幕張聖書バプテスト教会牧師 上山 要

「～人は神を恐れなければならない。今あることは、すでにあったこと。
これからあることも、すでにあったこと。～」(伝道者の書3:14-15)

日本中を震撼させる事件が後を絶たない。相次ぐ地震や災害の情報と共に、人々はテレビのニュースやワイドショー、インターネットから刻一刻と流れてくる詳細な情報にさらに驚愕と心痛の思いを募らせている。何よりも被害者家族や被災者の上に天来の慰めが豊かに届くことを願ってやまない。

苦しみや悲しみの意味を神に問うことは、その最中にある時は難しいものだ。だからこそ冒頭の聖句にあるように聖書は、私たち人間にとって、創造者であり支配者である神を知ることがすべての知識の始まりなのだという。さらに若い時にこの神の目を恐れることが、私たちの善悪の基準となる。この基準に厳密に従えば、神を認識しないで行うことはすべて罪である。そしていつの時代にも罪の結果の悲惨な出来事は存在し、それらは世の終わりまで間隔を詰めて繰り返されるであろう。

このように私たちは神の国と現実の社会の狭間で生きている。その二つの価値観の間にいる限り、私たちの悩みと痛みは尽きない。そして今日、教会や信仰者が抱えている閉塞感も、まさにこうした二元論のひずみの中で生み出されているのではないかと思われてならない。「こうあるべきだ、こうありたい」といった聖書的な理想と「しかし実際は・・・」という日本社会の現実の二元的対立は、はたしてどのように調和、統合されていくのだろうか。もちろん閉塞感というものとは抽象的なものであるゆえに、枠組みが変われば感じ方も変わる。今一度聖書の原点に戻り、真の教会の姿を見つめ直す機会になることを期待している。またこのような二元論は、社会的には勝ち組、負け組、あるいは格差社会、心理的には自己実現を妨げる要因ともなっている。こうした狭間で、心が「折れて(キレて)」しまう人間はますます増えてくるだろう。

このような社会の中で信仰者はどのように神を証することができるだろうか？教会は神の力に期待して、閉塞状態を外的に打破する必要がある。内的には聖書はもちろんのこと、神の御心を豊かに指し示す信仰良書によってますます励まされ、強められる必要があると思う。そして「ライフ・ライン」にはまさに現実の社会と信仰を結ぶ働きを担ってほしいと願っている。